

科目名 (Subject)	異文化コミュニケーションの基礎 1		
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	Dr. Kaori Sasaki (PhD in sociology)	研究室番号 (Office)	427
Office Hours	Wednesday (2 nd period; 4 th Period) 水曜日 (2講義,4講義)		

1. 授業目的・方法 (Course objective and method)

This module is basically taught in the English language!

この授業は、異なる文化や社会的な背景をもつ人びととの人的な交流（ビジネスの交渉を含めて）を円滑に行うための知識や技法の習得を目標にします。具体的には三つの目的を持った方法論からその目標の達成を試みます。

第一に、人びとの間に共有されている暗黙の考え方や規範 (tacit knowledge) —すなわち社会的には「ハビトゥス」 (habitus) と呼ばれる個々人が社会・文化的な環境要因から習得し、無自覚に実践している慣習的な行為、知覚、思考、価値観、身体作法— に起因するコミュニケーションの諸問題を理解することです。

第二に、異なる文化に属する人たちの間に起こりうる、相互理解の不全や衝突に関する演習問題を行います。この課題に取り組むことで、文化に起因するコミュニケーションの問題に対する解決策をグループ討論から追究し、自らの力でより良い異文化交流のあり方の探究する力を培います。

第三に、演習問題や討論形式の講義を通じ、一般的に望ましく、汎用性のあるコミュニケーション技法の習得を目指します。特に欧米のみならず世界各地で働いたり、グローバル企業（や日本企業）で勤務したりする際には、特に有用でしょう。

2. 授業内容 (Course contents)

1. Introduction
2. Issues arising from cross-cultural communications: On culture and stereotype
3. Cultural Capital: On habitus, tacit knowledge and the English language
4. Verbal communication style and non-verbal communication style
5. Time and space in communication
6. Mobilising your cultural capital and understanding that of others': On self-disclosure
7. Group study 1 (A couple of exercises from "Cultural Riddles") 1— Preparation
8. Communication skills 1: Active listening and self-assertive behaviour
9. Communication skills 2: How to analyse a conflict and/or failure in communication
10. Communication skills 3: How to solve conflicts and/or misunderstandings
11. Group Study 2 ("Cultural Riddles") —Presentation
12. Ethnicity, Sexuality, and Identity — On minority and culture
13. Group Study 3: Being a global citizen beyond the Americanism (Thinking through an exercise from "Cultural Riddles")
14. Globalisation and post-colonialism 1: understanding geo-historical and geo-political matters
15. Globalisation and post-colonialism 2 : Representation of culture; Language and power; Nation, Identity and Culture (toward Cross Cultural Communication 2)

3. 使用教材 (Teaching materials)

The course materials shall be provided. Work at several Exercises from the following book:

Shaules Joseph and Haruko Katsura (1998) *Culture Riddles —International Solving Dilemmas in International Communication*, Japan: 南雲堂

4. 成績評価の方法(Grading)

● 出席率	(Attendance)	10 %
● 授業への参加度	(Class Contribution)	25 %
● 授業中の提出課題	(Assignments)	20 %
● 最終課題	(an Essay and Presentation)	45 %

5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

秀 (100-90) –文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する深い理解にもとづき、その諸問題に対して洞察に富む分析、ならびに優れた解決策を提示することができる。また、今日的な国際ビジネスの場面において有用である様々なコミュニケーション手法を十分に理解し、それらを円滑に応用することができる。

優 (89-80) –文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する十分な理解にもとづき、その諸問題に対して優れた分析、ならびに有効な解決策を提示することができる。また、今日的な国際ビジネスの場面で有用である様々なコミュニケーション手法をよく理解し、それらを十分に応用することができる。

良 (79-70) –文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する十分な理解にもとづき、その諸問題に対して過不足のない分析、ならびに一定の効果をもたらす解決策を提示することができる。また、今日的な国際ビジネスの場面で有用である様々なコミュニケーション手法を理解し、それらを全般的に応用することができる。

可 (69-60) –文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する過不足のない理解にもとづき、その諸問題に対して論理的な矛盾を含まない分析、ならびにある程度の効果をもたらす解決策を提示することができる。また、今日的な国際ビジネスの場面で有用である様々なコミュニケーション手法の概要を理解し、それらをあらかた応用することができる。

不可 (59 以下) –文化や社会に起因するコミュニケーションの諸問題に関する理解が不十分であったり、その諸問題に対する分析と解決策が未熟であったりする。また、今日的な国際ビジネスの場面で有用である様々なコミュニケーション手法に対する理解が不足しており、その結果、それらの応用も不十分である。

6. 履修上の注意事項(Remarks)

- 講義は基本的に英語です **This module is basically taught in the English language.**
- 討論形式の講義が採用されます
- グループでの作業と発表が含まれます
- 課題において絶対的な正解も誤答も存在しないので、のびのびと参加して下さい
- 英語力よりも、コミュニケーション力を問うので、積極的に授業に参加しましょう